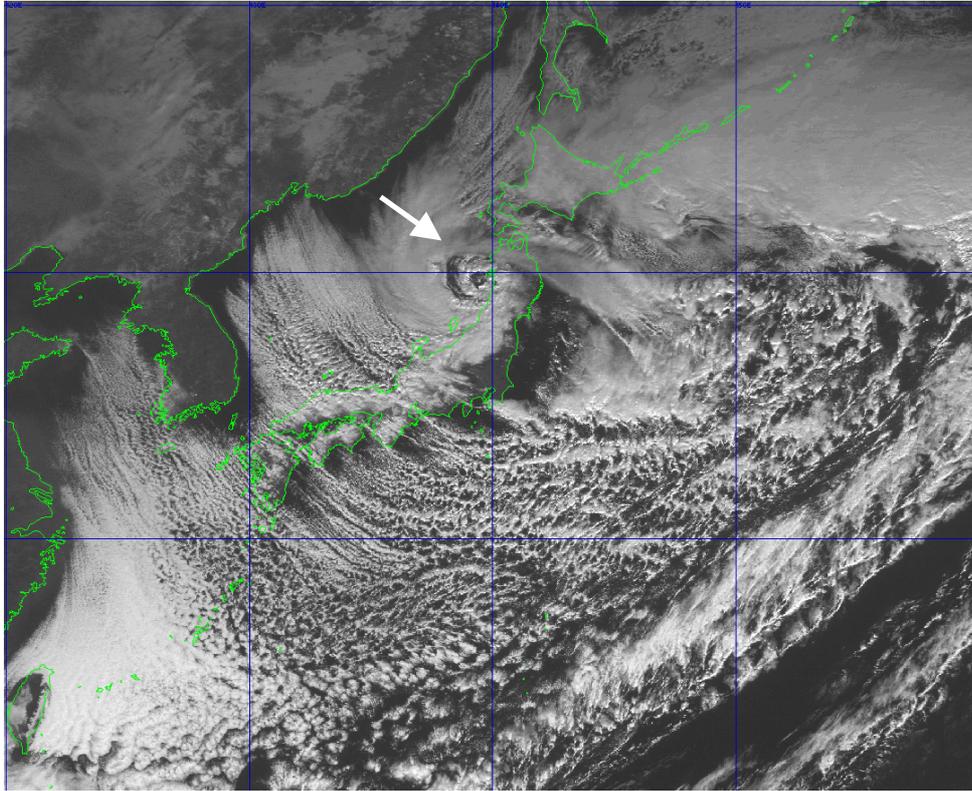


気象衛星画像

—今月のトピックス—



2003年12月20日11時の可視画像

強い寒気に伴う筋状の対流雲と秋田県沖の雲渦

写真は20日11時の可視画像である。日本付近は寒気の流入に伴い、筋状の対流雲列がびっしり広がっている。一部は太平洋側まで流れ出ており、寒気がかなり強いことを示している。また、秋田県付近に注目すると、明瞭な雲渦(矢印)が見られる。強い寒気は日本海中部から東北地方にかけて入っており、寒気を中心付近にはこのような雲渦が出現することがある。

ところで20日9時の高層気象観測では、上空5000m付近において石川県輪島で -40.5°C 、秋田で -39.5°C を観測しており、日本の上空に入っている寒気が強いことを確認できる。

この寒気に伴い、本州の山岳部を中心にこの冬初めての本格的な大雪となった。アメダスの観測では、同日7時までの24時間に岐阜県の白川と河合でそれぞれ80cm、17時までの24時間に群馬県の藤原で78cmの積雪差を観測した。また、名古屋でも同日9時に9cmの積雪を観測し、交通機関などに大きな影響が出た。

(気象衛星センター)